



あざれあナビSNS

静岡県男女共同参画センター・あざれあ情報誌

epoca

地元のハンサムウーマン
～地域力を高める女性たち～

中島 あきこ さん
(一般社団法人 ママとね 代表理事/三島市)

「ママ・パパ」と「地域」をつなげる

キャリアを中断しての孤独育児

「一般社団法人ママとね」(2014 年設立)は、WEB サイトをメインに静岡県東部の子育てに関する情報(イベント、子育て支援団体、おすすめ絵本や公園等)を発信している。

同団体代表の中島あきこさんは、第一子出産直後の 12 年前、夫の転勤に伴い三島市に転入した。知り合いゼロ、家族の支援は望めない、わからないことがあっても聞ける人は誰もいない、という環境で育児が始まった。

中島さんは東京近郊等で泌尿器科の医師としてバリバリ働いていたが、出産、転入のタイミングでキャリアを中断した。

「これまでのような働き方が続けられなくなり、手術もできず、後輩の医師たちに何も残せない、教えてもらった先生方にも申し訳ない、と当時は思っていました。自分の存在価値もわからなくなりましたね」

三島で、どこかしら“つながり”をつくりたい、と、地域の親子サークルを調べたが、当時は WEB から得られる情報は少なかった。しかし、何とか見つけて入った親子サークルで友達ができ、中島さんの状況は変わっていった。

「サークルに入っているから情報を知ることができる。情報が入るから安心する。友達がいるから子育ての楽しさにも気付きました」

当時、中島さんは週一回のパート勤務というかたちで外来診療の仕事をしつつ、早期の本格的な復職を目指していた。しかし、第二子を考え始めた頃「バリバリに戻らなくてもいいんじゃないか」と思い始めた。



中島 あきこ さん

(次ページへ続く)

静岡県男女共同参画センター・あざれあ

〒422-8063 静岡市駿河区馬淵 1-17-1

TEL : 054-250-8147 FAX : 054-251-5085 e-mail : info@azarea-navi.jp

URL : <https://www.azarea-navi.jp/>

編集・発行 : あざれあ交流会議グループ

「私は誰かの役に立ちたいんだ」ということに納得しました。医師以外でも役に立てることはあるんじゃないかって」

役に立てることは何か、中島さんは考えた。

「私と同じように、孤独育児で困っている方へ情報を届ける役割ができれば」

そんな中、親子サークルの先輩から紹介された人と意気投合。会って30分でWEBサイトの立ち上げを決意。“ママとね”設立に動き始めた。

「何かをやりたいと思っていても一人では難しい。同じ思いを持つ人と出会えたことが大きい一歩でしたね」と中島さん。

“ママとね”の活動

“ママとね”の現スタッフ数は14人。いずれも静岡県東部で子育てをしている女性たちだ。地域や次の子育て世代の役に立ちたいという気持ちを皆が持っている。

“ママとね”のWEBサイトでは“子育て目線”の情報発信を大切にしている。公園情報にしても、そこにおむつ替えシートはあるのか、自動販売機や駐車場はあるのか等、子育て中だからこそ必要な情報を掲載している。

“ママとね”立ち上げの同年には子育て応援の詩集「トツキトウカ SHIZUOKA EAST」の発行を始めた。詩集発行後には、行政や地域の企業と共同で親子イベントを毎年開催している。

コロナ禍になってからは、居場所提供として親子サークルを開始。活動場所は「トツキトウカ SHIZUOKA EAST」の共催企業が無償提供してくれた。助産師も無償で参加してくれている。サークルの運営は未就園児の母親スタッフが中心となって行っている。こうした活動はスタッフにとって自己実現かつ世界が広がるきっかけになっていると中島さんは言う。

「企画から運営まで、やることは仕事と同じ。社会復帰のリハビリにもなっていると思いますね」

令和3年11月からは「あひる図書館」をオープン。本棚のひと箱ごとに市民オーナーがいる、ユニークな仕組みの私設図書館だ。これまで“ママとね”の活動はオンラインがメインだったが、図書館という場を持ったことは大きいと中島さんは言う。

「コロナ禍で皆“つながり”が希薄になってしまった。子育て世帯だけではなく地域全体に目を向けて、本を核に大人も子どもも一緒に交わっていききたいなと思います」



静岡県東部のママ・パパ・祖父母から赤ちゃんへ贈るラブレター「トツキトウカ SHIZUOKA EAST」
毎年10月10日発行

“つながること”は楽しい

「私は地域に育てられ、救われた」と中島さんは言う。

「以前は病院の中の狭い世界しか知らなかった。でも世の中こんなに広いんだって思いました。地域のあらゆる人とつながりを持てるのが面白くてしょうがないですね」

最後に“ママとね”の活動で楽しいことは？中島さんに聞いた。

「よその赤ちゃんを抱っこできること。その間お母さんは休める。お母さんの役に立ててかつ自分も癒される。役得です(笑)」

“ひと”と“地域”をつなぐ“ママとね”の活動は、これからも続いていく。



“ママとね”スタッフの皆さん イベント時に

ママとね WEB サイト <https://mamatone.net/>

Instagram <https://www.instagram.com/mamatone/> (@mamatone)

LINE @mamatone

Facebook <https://www.facebook.com/mamatonenet/>

スタッフ募集中！



IT 企業の意識改革



代表取締役社長 加野和裕さん

株式会社ソフトウェアプロダクツは、ソフトウェア開発など情報通信業を営む IT 企業。同社は、残業や人手不足、女性社員の低比率など、IT 企業ならではの課題に取り組んできた。15 年程前に導入した“フレックスタイム制度”はそのひとつ。

「家事や子育てを理由に辞める女性社員もいた。だから社員の時間をつくろうと。同制度の導入で働きやすくなったと社員から言われ、女性の求人応募も徐々に増えました」と代表取締役社長の加野和裕さん。

また“働き方”に関して社員の意識に変化を促した。「昔は“夜遅くまで働くことは良い”という風潮があったが、“時間内で効率よく働くことが良い”という考え方の改革も行いました」と加野さんが続ける。

「そもそも IT 企業だからといって特に男性がいいというわけでもない。女性にも向いていると感じます」と話すのは社員の石川寿子さん。

数年前、同社は人事・評価制度や働き方の見直しを提案する「オレンジプロジェクト」を発足。メンバーは経営統括部署と社員で構成されており、半数は女性。同プロジェクトでは経営者と社員それぞれの思いを共有している。「社員に“経営者的な視点を持つこと”を経験してもらいたい」と加野さん。ここ数年で女性管理職も出てきた。

同社は社員でイベントやディスカッション、研修等を行う“コミュニケーションデー”を月 1 回設けている。コミュニケーションデーは社員に知ってほしいことを伝える大切な場で、去年はワーク・ライフ・バランスや職場の女性参画の拡大など、男女共同参画に関する研修を開催した。研修を企画した石川さんは言う。「なぜ女性参画やダイバーシティの考えが必要なのかということを講師に話していただき、社員の意識の底上げを図りました」

ほかにも健康経営やメンター制度、女性活躍にむけた行動計画の周知等、様々な取組を実施し、「令和3年度男女共同参画社会づくり活動に関する知事褒賞 女性の活躍推進事業所の部」を受賞した。

「企画担当として、女性活躍やワーク・ライフ・バランス等いろんなアプローチから社員が腹落ちし、会社全体で意識の底上げができればもっといい会社になると感じています」と石川さん。

加野さんも経営者の立場から意識の変化の必要性を言う。「昔はどの社員も出世が目標でしたが、今はそればかりではない。“自分らしい働き方”を社員に提供できる会社になるよう進んでいきたいです」経営者と社員、それぞれの意識改革が企業の成長につながっている。



サークル活動や運動会等、和気藹々としたイベントも実施

ブックサポーター 51

新着案内

『海をわたった母子手帳』

：かけがえない命をまもるパスポート

（中村安秀 著 旬報社 2021 年）



戦後の貧しい時代、母親と子どもを守るために 1948 年に日本で作られたのが、母子手帳です。当時は食料配給の手帳でもありました。妊娠から誕生、発育の記録が記され、子どもと母親を繋ぐ手帳は、現在では世界各地で使われています。【児童書】

『男も育休って、あり？』

（羽田共一 著 雷鳥社 2021 年）



男性の育休についての新聞記事を見るようになりました。著者は現役の小学校教師です。男性教師の育休は他の業種に比べて取りやすいらしいのですが、教員不足もあり難しいようです。しかし、育休をとる、とらないは本人の判断と著者は述べています。

あざれあ図書館
利用案内

貸出：図書 10 冊、ビデオ・DVD 4 本（3 週間）
開室時間：月～金 9:00 - 18:00 土日祝 9:00 - 17:00
休室日：第 1・3・5 日曜日、図書整理日
TEL：054-255-8763 FAX：054-255-8759



令和4年度 男女共同参画の今を知る情報誌 「ねっとわあく」編集員 募集

静岡の男女共同参画について
情報誌をつくってませんか？



【仕事内容】「ねっとわあく」（年2回発行予定）の企画、取材、原稿の作成・編集、発送

【応募条件】・ジェンダーに関心があり、男女共同参画の視点から企画を立て、取材・記事作成が行えること
・インターネットに接続されているパソコン環境が自宅にあり、メールの送受信が可能であること
・ワード等を使って文章作成ができること
・静岡県内在住で、編集会議に参加できること
※会議は平日昼・年10回程度実施予定（会場はあざれあ）／会議日程は編集員のスケジュールを確認し、その都度決定

【任期】令和4年5月頃～令和5年3月 / 【募集人数】若干名
【謝金】1号発行につき30,000円程度（会議半日出席2,000円／1日出席4,000円＋号発行時10,000円）
※別途、会議や取材などの交通費支給

【応募方法】応募用紙と課題作文をメールでお送りください

※応募用紙はWEBサイト「あざれあナビ」編集員募集ページからダウンロードしてください

【課題作文テーマ】「あなたが考える男女共同参画の課題」（1,000文字以内）

【問合せ・応募書類送付先】

NPO法人あざれあ交流会議 『ねっとわあく』編集員募集 係
メール：info@azarea-navi.jp TEL：054-250-8147（平日9～18時）
WEBサイト「あざれあナビ」https://www.azarea-navi.jp/cyottoe/r4_nw/

あざれあナビ



応募締切

令和4年
4月11日 月
必着



あざれあ ネットわあく編集員

ふじのくにLGBT電話相談

静岡県内に在住、在勤、在学の方が相談できます。秘密厳守、匿名OK、相談無料です。

0120-279-585

毎月第1火曜日・第3土曜日 18:00～22:00

性のあり方に関する悩みや困りごとについてお話しください。 ※御本人だけでなく、家族、友人、職場や学校の関係者も相談可
※専門相談員による相談です。



あざれあ相談

悩んだとき、困ったときは、あざれあへ



女性相談

女性が抱える様々な悩みについて、女性相談員が対応します。



0558-23-7879 賀茂／055-925-7879 東部
054-272-7879 中部／053-456-7879 西部
054-272-7887 ※全て中部へ転送されます

月・火・木・金 9:00～16:00 / 水曜日 14:00～20:00
第2土曜日 13:00～18:00

※いずれも、祝日・お盆・年末年始を除く
※混み合う場合がございます。時間をあけておかけ直してください。

インターネット相談

専用の入力フォームに相談内容を記入して送信してください。



※相談に対する回答は、1週間程度かかります。
お急ぎの場合は、電話相談を御利用ください。
※GW、お盆、年末年始等あざれあ相談を実施していない期間は送信いただいた相談を確認できませんので、回答には通常よりお時間をいただきます。御了承ください。

<https://www.azarea-navi.jp/shisetsu/soudan/>



DV その他暴力に関する相談（予約制面接相談）

月・木 10:00～15:00 / 水曜日 14:00～19:00 ◎まずは電話相談におかけください。

男性相談

生き方・家族・仕事・健康等の悩みについて、男性相談員が対応します。



専用電話 054-272-7880

毎月第1・3土曜日 13:00～17:00

※つながらない場合は、少し時間をおいてかけ直してください。
※第1・3土曜日がお盆・年末年始の場合、次週の土曜日に実施します。

リプロダクティブ・ヘルス／ライツ 啓発リーフレット



自分の体のことは自分で決めたり、自分を
守ったりすることができるよう、若い年代
向けにパンフレットを作成しました。



【発行・問合せ】

静岡県くらし・環境部県民生活局
男女共同参画課
TEL: 054-221-3363

あざれあで配架中